

## 言葉の旅 スペイン語のバリエーション (11)

### ラプラタ諸国

ラプラタ川(Río de la Plata)は私たちが普通にイメージする「川・河川」とはかなり異なります。幅は河口部で200km以上もあるのに、長さは意外と短いのです(およそ300km)。地理的にはパラグアイ川(Paraguay)、パラナ川(Paraná)、ウルグアイ川(Uruguay)という大河川と多くの小河川の河口部(estuario)に相当します。両岸のアルゼンチン(Argentina)の首都ブエノスアイレス(Buenos Aires)とウル



【写真1】Buenos Aires の Boca 地区

グアイ(Uruguay)の首都モンテビデオ(Montevideo)の間をジェット機の便が結んでいます。今回の言葉の旅ではこれら2つの都市と内陸の国パラグアイ(Paraguay)の首都アスンシオン(Asunción)を訪ねましょう。この3国は地理的・歴史的な結びつきから「ラプラタ諸国」と呼ばれます。

アルゼンチンの人々が話すスペイン語でまず気づくのはイタリア語によく似たイントネーションです。次の説明を読むと19世紀の末から20世紀のはじめにかけて多くのイタリア人が移民し、アルゼンチンのスペイン語に影響を与えたことがわかります。

(...) en el censo de 1887, Buenos Aires contaba con un 47,4% de nacidos en territorio argentino, un 32,1% de italianos, un 9,1% de españoles y un 4,6% de franceses, junto con un 6,9% de otros extranjeros. Pese a la complejidad que plantea interpretar lingüísticamente estas cifras, no cabe duda sobre la existencia de un marcado multilingüismo (...)

「1887年の国勢調査によればブエノスアイレス市の住民の47.4%がアルゼンチン生まれ、32.1%がイタリア移民、9.1%がスペイン移民、そして4.6%がフラン

ス移民で、6.9%がその他の外国移民であった。これらの数字の言語学的解釈は複雑だが、著しい多言語使用が存在していたことは疑いの余地がない」(María B. Fontanella<sup>1</sup>)

なんと住民の3分の1近くがイタリア移民だったそうです。確かにこの地域のスペイン語には **chau** (=adiós「さようなら」), **pibe / piba** (=niño / niña「子供」), **fiaca** (=pereza「面倒・ものぐさ」)など多くのイタリア語語源の言葉が使われています。あの独特のイントネーションもイタリア語の影響である可能性は高いと思われます。

ウルグアイの言語学界の今年(2000年)最大のニュースはウルグアイ共和国大学(Universidad de la República)の人文・教育学部とドイツ・キール大学が共同で完成させた『ウルグアイ地理的・社会的言語地図』(*Atlas Lingüístico Dialectal y*



【写真2】 マテ茶の習慣

*Dialectal del Uruguay*)でしょう。これは従来の言語地図にはなかった社会言語学的なバリエーションも含めた画期的なものです。その出版披露も兼ねた言語地理学シンポジウムに出席したときのことですが、ここではウルグアイ・ブラジル国境地域の言語接触の研究が盛んであることがわかりました。この地域では次のようなポルトガル語起源の言葉が多く使われます。**fechar** (=cerrar「占める」), **janela** (=ventana「窓」), **brasileiro** (=brasileño「ブラジルの」)。アメリカ合衆国のジョン・リップスキー氏(John Lipsky)は、"La mezcla léxica es omnipresente en fronterizo, debido, sobre todo, a la elevada cantidad de vocabulario cognado que comparten el español y el portugués"「国境地域の語彙の混交はいたるところで見られるが、これはとくにスペイン語とポルトガル語が共有する多大の同語源語によるものである」と述べて

---

<sup>1</sup> , "Historia del español de la Argentina", en C. Hernández Alonso (ed.) *Historia y presente del español de América*, Junta de Castilla y León, 1992.

います<sup>2</sup>。



【写真3】Palacio de Gobierno, Paraguay

「アメリカ大陸の心臓」(corazón de América)とも言われるパラグアイは、確かに広大な大陸の中心にあります。国土の形も私には心臓のように見えますがどうでしょうか。その動脈であるパラグアイ川に面する首都アスンシオンではほとんどの人がスペイン語とグアラニ語(guaraní)を自由に話します。パラグアイの国勢調査(1982)によれば、国民の40%がグアラニ語だけを話し、スペイン語とグアラニ語のバイリンガルは50%近くに上り、スペイン語だけを話す人はわずか6%台です。そのため、パラグアイの人々のスペイン語にグアラニ語の響きが伝わってくるのは当然でしょう。たとえば、**casa-i**「小さな家」の-iは、小さなものや価値のないものを示すグアラニ語源の接尾辞です。またスペイン語の**todo**がグアラニ語のpaと同じように、動作が完了したことを示します。¿Floreció tu rosa? (「あなたのバラの花は咲きましたか」)-No, se seca **todo**. (=No, se ha secado.「いいえ、枯れてしまいました」)。私はビタリナ・パエスさん(Vitalina Páez)をはじめアスンシオンのカトリカ大学(Universidad Católica)の先生方に、この国のスペイン語の特徴をいろいろと教えていただきました。パラグアイは私にとって「アメリカ大陸の心(corazón)」とも言えるやさしい国です。

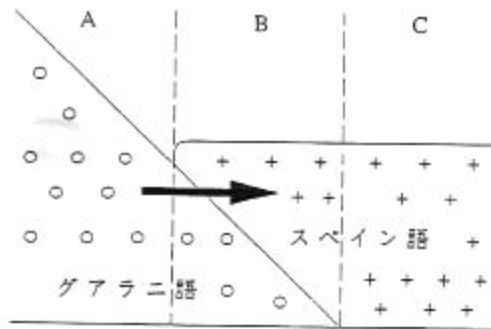
---

<sup>2</sup> *El español de América*, 1996, p.377.

### 基層・上層・傍層

『ウルグアイ地理的・社会的言語地図』の主幹であるウルグアイ共和国大学のアドolfo・エリサインシン氏(Adolfo Elizaincín)は、その著書『接触する方言・スペインとアメリカ大陸のスペイン語とポルトガル語』で接触する2言語の様態を示す3つの概念を説明しています<sup>3</sup>。

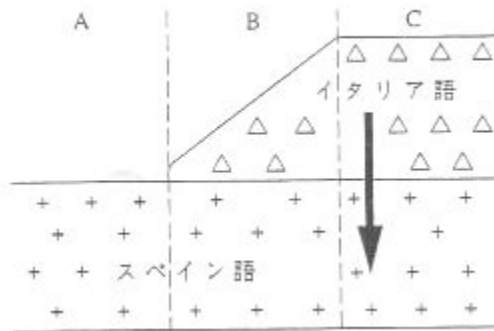
先住民の言語が後から到来した言語に影響するとき、先住民の言語を「基層」(substrato)と呼びます。たとえば、パラグアイのグアラニ語は次の図-1のように土地(Bの地域)のスペイン語の基層となります。A地域ではスペイン語が使われず、C地域では基層がないことを示します。



【図-1】 基層

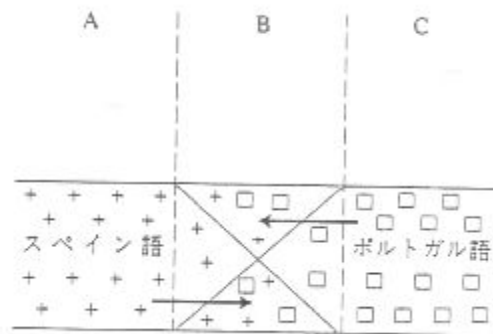
アルゼンチンに到来したイタリア語はスペイン語においかぶさる形で「上層」(superstrato)となって影響を与えました。図-2のA, B, Cの順で上層言語の影響が強くなります。2言語の境界線は移動する可能性があります。たとえばchaoという挨拶言葉はアルゼンチンとウルグアイに限らず、スペイン語圏に少しずつ浸透していく気配が感じられます。

<sup>3</sup> *Dialectos en Contacto. Español y Portugués en España y América*, 1992, Montevideo Arca, pp.45-47.



【図-2】 上層

ウルグアイとブラジルの国境地域では、図-3 のようにポルトガル語がスペイン語と並立する形で影響を与えています。この場合のポルトガル語はスペイン語にとって基層でも上層でもなく、「傍層(ぼうそう)」(adstrato)として作用してます。たとえば、**Gusto** de Río de Janeiro (=Me gusta Río de Janeiro「私はリオデジャネイロが好きだ」)のような **gustar** の使い方や、「(偶然に) 出会う」という意味で **hallar** を使うのは (Cuando venía para acá, **hallé** a Juan.「ここに来るときにフアンに出会った」), ポルトガル語の影響ですが、図-3 の B に相当する国境地域の現象で、南の首都(A)にまでは達していません。



【図-3】 傍層

また、エリサインシン氏は言語の接触に他のタイプがあることも指摘しています。

Tan nítido como este esquema no lo es la realidad. Falta en esta visión, por

ejemplo, el caso de que, como consecuencia del contacto, surjan lenguas del tipo pidgin, criollos, etc.「現実はこの図式で示されるほど明確なものではない。この視野には、たとえば接触の結果生まれるピジン語のタイプの言語やクレオール語などのケースが含まれていない」

### 言葉の広がり...「ポップコーン」

このように同じラプラタ諸国と言っても3国の言語事情はそれぞれ異なります。たとえばマテ茶のように共通する習慣や言葉は確かに多いのですが、3国で使う言葉がそれぞれ違うこともあります。その例として今回は「ポップコーン」を取り上げましょう。これには3国に共通して **pororó** (地図の **Prr**) という言葉が使われる一方、アルゼンチンの **pochoclo** (**Pch**)、ウルグアイの **pop** (**Pop**) という独特の呼び方もあります。スペイン語圏全体を調べると **palomitas** (**Plm**) が優勢です。他にスペイン(カナリアス諸島)とベネズエラの **cotufas** (**Ctf**)、キューバの **rositas de maíz** (**Rsit**)、グアテマラの **poporopo** (**Ppr**)、コロンビアの **crispetas** (**Cpt**)、エクアドルの **canguil** (**Cgl**)、ボリビアの **pipocas** (**Ppc**)、チリの **cabritas** (**Cbt**) があります。また、スペイン・カナリアス諸島のラス・パルマスでは **roscas** (**Rsc**)、メキシコでは **rosetas** (**Rset**) などが見られます。英語に由来する **po(p)corn** (**Pco**) もプエルトリコ、メキシコ、ニカラグア、パナマ、ペルーなどで使われています。



【地図】「ポップコーン」

【課題-11a】Lipski (1996)を読み, Argentina (pp.183-203), Paraguay (pp.324-335), Uruguay (pp.369-377)のスペイン語の音韻, 文法, 語彙的特徴について, 類似点と相違点をあげなさい。

【課題-11b】19~20 世紀のラテンアメリカの移民とその社会・文化的影響について調べなさい。

\* 参考: Edwin Early et al., *The History Atlas of South America*, Macmillan, 1998, 増田義郎訳『南アメリカ大陸歴史地図』東洋書林, pp.110-111; 大貫良夫監修『ラテンアメリカを知る辞典』平凡社, 1999, 「移民」の項。

【課題-11c】「ポップコーン」を意味するスペイン語の語形の地域的語彙バリエーションについて調べなさい。

\* 参考: Varilex: <http://gamp.c.u-tokyo.ac.jp/~ueda/varilex/>